

令和7年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 18		学校名	県立伊奈特別支援学校										学校長名	大木 勉			
教頭名	安 伸夫			教頭名	高野 康子				教頭名	瀬尾 理絵子			事務（室）長名	坂寄 泰丈				
教職員数	教諭	132	養護教諭	2	常勤講師	30	非常勤講師	7	実習助手	2	寄宿舎指導員	0	事務職員	3	技術職員等	18	計	194
幼児・児童・生徒数	部	1年		2年		3年		4年		5年		6年		合計		合計 クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	小学部	29	3	27	11	14	6	22	6	26	9	23	9	141	44	45		
	中学部	16	9	30	13	26	10							72	32	22		
	高等部	18	9	27	10	23	15							68	34	17		
													小計	281	110	84		
													合計	391				

2 目指す学校像

- ◆ こころとからだにやさしい学校
- ◆ 一人一人の可能性を大切にする学校
- ◆ 信頼とつながりを大切にする学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度は、全校児童生徒数（378名）に占める30日以上欠席者は12.3%（47名）で、令和5年度の12.9%に比べ、わずかに減少した。不登校の児童生徒への支援については、個々の背景や理由を把握しながら、児童生徒に合った支援策を講じている。また、本校サポートセンターを中心に、外部機関との連携を図り、ケース会の実施も行った。 ・いじめ対策として、児童生徒対象心のアンケート、保護者対象の心のアンケート、職員対象のいじめの発見等に関するチェックリストを実施し、早期発見、早期対応に努める。 ・コンプライアンス遵守の共通理解と意識向上のため、コンプライアンス推進委 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席者に対する、これまでの対応、外部機関との連携を継続して進める。 ・早期発見、早期対応の継続と、学校会議方法変更に伴ういじめ防止対策会議の実施方法や資料提示内容の工夫。 ・研修とともにヒヤリハット事例も共有し、コンプライアンス遵守の意識を、教職員一人一人が自分ごととしてもち続ける工夫。

	<p>員会を中心に、管理職によるトップダウン型の研修や、各部が主体となって行うボトムアップ型研修を併用しながら職員研修の充実を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年度は月勤務時間45時間、年間360時間を超過した職員がいなかった。令和7年度も、管理職、教務主任、部主事、学年主任が連携し、定期的な声かけや教員間の仕事の均一化を図り、行事の精選や仕事内容の整理等を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 段取り力の強化と、行事や会議の精選や仕事内容の整理の継続。
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 昨年度より、各教科等を合わせた指導についての学校全体で研究を行っている。授業改善と単元計画の工夫の職員による学校評価では、令和5年度のA・B評価が50%に対し令和6年度のA・B評価が68%に向上したことから、研究推進が図れていると考えられる。一方、児童生徒の具体的な姿での評価やできる状況を意識した授業づくりにおいては、課題として挙げられている。 令和6年度から個別の指導計画の各教科、各教科等を合わせた指導等の3観点での目標設定を進めており、学習指導要領に基づく具体的な目標や目標達成に向けた妥当な手立て設定に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価について共有すべき視点の整理やできる状況づくりの具体性の検討など授業評価の工夫。 児童生徒一人一人の実態に即した目標設定の継続。

4 中期的目標

- 特別支援学校教職員としての専門性向上に努める。(人材育成)
- 3観点をふまえた各教科等(合わせた指導を含む)の授業改善と評価の工夫に努める(授業力)
- 地域とともにある学校づくりの推進に努める(コミュニティー・スクール)

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 自立と社会参加に向けた教育活動の充実	①基本的な生活習慣(挨拶・整容・姿勢・言葉遣い・時間管理等)と豊かな心の育成を図る ②個々の自立定義を明確にし、系統的なキャリア教育を推進する ③社会参加を促す体験的な学習の充実と実践を図る ④地域交流・学校間交流・居住地校交流等の交流及び共同学習を推進する
2 一人一人の個性や特性及び状態に応じた指導・支援の充実	⑤経験の積み上げに迫る適切な指導・必要な支援を行う ⑥探求心を高める授業を実践し、一人一人の可能性を最大限に伸ばす ⑦学びの下支えとなる、自立活動の充実を図る ⑧自立活動、3観点に基づく教科指導の充実を図る ⑨ICT機器を有効活用し、多様な授業展開を図る
3 センター的機能の充実	⑩特別支援学校として、組織的な支援を推進する ⑪教育相談及び適切な就学支援の充実を図る ⑫個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用を支援する ⑬スポーツ・文化活動を推進するとともに障害者スポーツの理解啓発に努める

4 専門性の向上	<ul style="list-style-type: none"> ⑭感覚や認知特性に関わるアセスメント力の向上を図る ⑮実態把握、芽生えを捉える分析力の向上を図る ⑯確かな専門性をもって一人一人に寄り添う支援を行う ⑰校内研修等を充実させ、専門性の向上を図る ⑱医療・福祉、地域、関係機関等との連携・協働を通じた教育活動の充実を図る
5 安全・安心な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ⑲心の居場所と安心して学べる学校づくりを目指す ⑳想像を広げたいじめの予防的取組と組織的対応の充実を図る ㉑想像を広げた危機管理体制（平時・緊急時・災害時等）の見直しと強化を図る ㉒想像を広げた視点で業務改善を行い、働き方改革を推進する